



# 鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—188      2026 年   1 月 5 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム   Email:info@k-peace-forum.org  
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7   TEL 099-252-8585   FAX099-258-4560

## 平和と民主主義をすすめていく 2026 年に！

副代表   中川路   守

新年明けましておめでとうございます。  
2026 年第 1 号の巻頭言に照れを感じつつ、  
平和で民主的な社会形成にむけた思いを述べたいと思います。

ここ数年の各種選挙において、SNS を活用したウソや言いがかりが、さも事実であるかのように流布され、良識的な言動をしている人々が多くの人々から「敵」とみなされ、自死に追い込まれたり精神的に追い詰められたりしました。しかも、仕掛けている人間が「ゲームの管理者」のごとく「ルール」を次々と作っていくことに社会が追いつかず、同様の「ゲーム」が各地で仕掛けられました。「ゲーム」という表現に違和感を覚える方もいると思いますが、私からすれば、彼らは間違いなく「ゲーム感覚」でいるとしか思えません。

日本でこの「ゲーム」を楽しんでいる人々は、トランプ大統領やヨーロッパの「極右政党」の手法に学んだり支持者等と交流したりしていることが明らかになっています。そして、彼らの背後には、YouTube 編集等に長けたスタッフをそろえた企業や、「ゲーム」の顛末を楽しみたく資金提供をするスポンサーがいるだろうことは想像に難くありません。

第 217 回通常国会において、立憲民主党・杉尾参議院議員が、「自民党、立憲民主党、財務省を批判して、国民民主党、参政党を

称賛するような書き込みの仕事を募集」している企業をとりあげました。杉尾議員の「(SNS によって)日常的に選挙でなくても、金の力で一定の世論形成・世論誘導を行う



ということが可能」だという指摘に対し、総理は「そういうことが跋扈しているのか」「あつてはならないこと」だと返しました。ただ、深刻なのは、これを制限する仕組みがないことです。このままでは民主主義が壊されてしまいます。

SNS 上のウソやごまかしを見抜き、平和で民主的な安心社会の構築にむけて、正論を堂々と発信していく力量が重要だと言うのは簡単ですが、これは非常に難しいことです。なぜなら、最近のネット空間はあまりにも多くフェイク情報に満ちあふれており、いったんフェイク情報に接してしまうと、フィルターバブルによって類似の情報に包まれてしまうからです。

国内外で平和と民主主義を脅かす動きが顕著です。2026 年は、こうした動きをくいとめていかなければなりません。勧善懲悪のドラマのごとくとはなりませんが、平和と民主主義をしっかりとすすめていくために、ともにがんばりましょう。

## 25 年振りの米軍岩国基地陸上空母離着陸訓練(F C L P)訓練と騒音問題

米軍岩国基地は、1938 年に日本海軍の飛行場として設立、戦後は連合国軍に接收され、その後米軍の基地として、朝鮮戦争やベトナム戦争時には、米軍の重要な拠点基地として兵員や物資の輸送、航空作戦の支援を行ってきました。現在は、アジア太平洋地域の重要な戦略拠点としての役割を担い、特に、米海軍の空母艦載機部隊が厚木基地から移駐し、基地の規模と重要性はさらに増している。また、米海兵隊が運用しており、基地の存在は地域の経済や文化にも深く根付く一方で、戦闘機による問題などの課題も抱えています。

神奈川県横須賀港を母港とする米原子力空母「ジョージ・ワシントン」が寄港すると、艦載機は岩国基地に移動、パイロットには出港までに 1,200 キロ離れた小笠原諸島の硫黄島での、陸上離着陸訓練(F C L P)が義務付けられています。F C L P は、滑走路を空母甲板に見立てて戦闘機の離着陸を行う訓練で、後輪が着地するとすぐに出力を最大にして離陸する「タッチアンドゴー」を繰り返します。特に、夜間訓練(N L P)は重要とされ、同時に、激しい爆音が伴う訓練です。1991 年 8 月から硫黄島で訓練をしていますが、今回は、硫黄島の火山活動を理由に、また、岩国市長が、激しい騒音による「住民の負担が大きい」として、実施しないよう求める中、9 月 17 日から土日祝日を除き 26 日まで、岩国基地で 25 年振りに実施しました。米軍は、岩国市と約束した終了時間を無視し、予定にない土・日や夜間の訓練も強行しています。

2022 年 12 月、米軍岩国基地周辺の住民ら 436 人(211 世帯)は、航空機騒音の損害賠償や米軍機と自衛隊機の夜間・早朝の飛行差し止めなどを国に求め、山口地裁岩国支部に提訴しました。2009 年に続く第 2 次訴訟で、17 年度に厚木基地から空母艦載機約 60 機が移駐したことによる騒音への影響を訴えています。これで、岩国基地の騒音被害を巡る第 2 次「岩国爆音訴訟」は、新たに市民 54 人が加わり 490 人となりました。これまでの口頭弁論で住民側は「空母艦載機部隊の移転により騒音は悪化している」、国側は「騒音は受忍限度を超えるものではない」と、お互いに主張しあっています。

鹿児島に米軍はいらない県民の会(県民の会)の磨島事務局長は 9 月 17・18 日に、山口平和運動センターのご協力をいただき、25 年振りに岩国基地で行われる F C L P 訓練を視察しました。出発前に、種子島の西之表市長及び市議会議長宛に、これから先「馬毛島」で行われるであろう F C L P 訓練を目の前で見るといい機会なので「実際の訓練を現地で、自分の目で視察してください」と、F A X で依頼しましたが、誰も来ていませんでした。早ければ 2026 年の後半にも恒久的に「馬毛島」で訓練が始まります。岩国市民が苦しめられている「爆音訴訟」が、種子島で起きないよう、また、訓練中の空域・海域の立入禁止が、島民の生活に悪影響を及ぼさないよう、県民の会は、熊毛ブロックと連携しながら、今後も反対のとりくみを強化していきます。



## 12.8「不戦を誓う日の集会」!

1945 年 8 月 6 日広島・8 月 9 日長崎の原爆投下から 80 年たっても、核廃絶は実現できていません。1954 年のアメリカのビキニー環礁での水爆実験で被曝した、日本の漁船第 5 福竜丸事件が「原水爆禁止」の気運を高め「核兵器廃絶・被爆者救済」を、運動の両輪として 1955 年に第 1 回原水禁大会が開かれました。被爆者の体験を原点とする原水禁運動の歩みと原水禁運動の足元を確認し、現在の米国とイスラエルによるイラン核施設への攻撃をはじめ緊迫する国際情勢や高齢化した被爆者の実相の継承していかなければなりません。

そこで、鹿児島ブロック護憲平和フォーラム主催で、12・8 不戦を誓う集会が、12 月 6 日（土）旧県庁跡地の県民交流センターで開催されました。年末の土曜日の午前中で皆さんお忙しい中でしたが、50 名も参加があり、熱気にあふれる集会になりました。

講演の講師は、中央原水爆禁止日本国民会議の谷 雅志・事務局長。「被爆・敗戦 80 年原水爆禁止活動の現状と課題」というテーマで話をいただきました。お話は多岐にわたりました。これまでの原水禁運動の歴史・今後の課題だけではなく、平和運動全般、原子力発電の現状・未来等々。谷さんは、お話の中で、「私たちの学び・平和の思いをしっかりと伝えていかなければならないが、そのためには、社会をより良くすることが出来るという実感力、今のままでこの先どうなるのかという想像力、さらにそれを言葉にして伝える表現力が大切だ。」と、力説されていました。「大切なことは、若者、市民を共感者にするために、私たちはしっかり学び、しっかり伝える努力をしなければならない。」ともおっしゃいました。正しいことだから伝わらないのはおかしいではなく、発信力を磨かなければならないのです。

原爆が投下されて 80 年。いまだに核兵器が廃絶できない現実、無力感を感じそうになります。しかし、日本は、唯一の戦争被爆国です。被爆の実相を被爆者とともに知るただ一つの国として、国際社会の中で核兵器廃絶を訴え続けるために、核兵器禁止条約に署名、締約・批准する責任があります。そのうえで、絶対悪である核兵器の廃絶を、国際社会の中で声高く叫び続けなければなりません。

今回の集会は、80 年という節目の年に、谷雅志さんにご講演をいただき、学びを深め、私たちの平和の思いを強くすることができました。

今後も、鹿児島県護憲平和フォーラムへのご理解とご支援よろしくお願い致します。



谷 雅志事務局長





## 大隅ブロックの取り組み 戦跡から戦争を考える



大隅ブロック平和運動センターでは、昨年に引き続き、「12.8 不戦を誓う日」の活動として戦跡巡りをおこないました。今年は、鹿屋市串良町の平和公園に集合し戦跡ガイドの小手川清隆氏に6か所の戦跡を案内と説明をしていただきました。(各戦跡は別添えの資料参照)どの戦跡も戦争の悲惨さを物語るものでした。安倍政権から続く軍拡の動きは、高市政権ですますます強まっています。まさに平和が脅かされる危険な情勢です。昼食をとりながらの意見交換のなかで、参加者からも危惧や平和の大切さなどの意見が出されました。地元でありながら知らないことや見たこともなかった戦跡などまだまだあるなど実感し学ぶ大事さも再確認しました。参加された皆さんに感謝申し上げます。

### オスプレイ夜間訓練中止要請

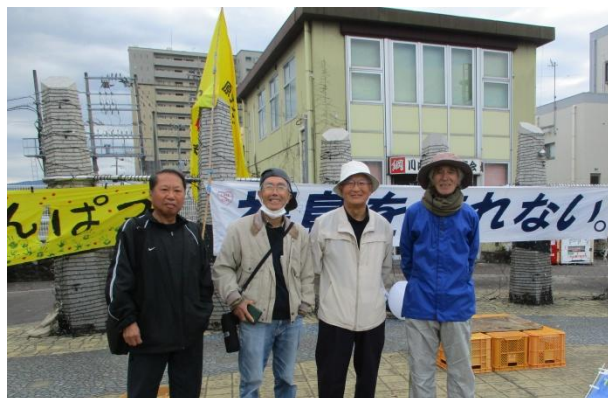
大隅ブロック平和運動センターは、12月12日(金)午後2時から鹿屋市役所において、12月15日から予定されているとされるオスプレイの夜間訓練について、中西茂・鹿屋市長に対して、国(防衛省)に中止を求めるよう要請行動を行いました。要請行動は、社民党県連合・肝属総支部と共同で行われました。「2年前の屋久島沖での墜落事故後も相次ぐ事故事例が多く、危険度の増す夜間訓練は市民に不安を与えるもの。即時中止を要請して欲しい」と強く訴えました。



## 南薩ブロックの取り組み 川内原発の乾式貯蔵を考える



挨拶する「考える会」向原代表 11/24



南薩から参加の面々 JR川内駅前

「川内原発の乾式貯蔵を考える会」キックオフ集会は11月24日 JR川内駅前で開催され、今後県民世論を県知事と九電へ届けるアンケートを順次取り組んでいきます。ご協力を!!!

## 始良伊佐ブロックの取り組み 12.8 不戦を誓う集会で日米共同訓練の反対統一行動

12月7日(日)、霧島市隼人町木之房交差点で、日米共同訓練の反対統一行動として、スタンディング行動を実施しました。参加者が想定した人数より多く、12人参加して下さったので、広くアピールできました。

